

# 職員オススメ本 10月



「図書館のお夜食」 原田 ひ香／著 ポプラ社

SNSに匿名の書店員として投稿していた乙葉の元に、ある一通のダイレクトメッセージが届いた。そのメッセージは、送り主がオーナーを勤める「夜の図書館」で働かないかというものだった。夜の図書館とは、一般の図書館とは違い、開館時間は夜七時から夜中の十二時まで。置いてある本は、すでに亡くなった作家の蔵書を寄付してもらい展示するという本の博物館のような図書館だ。館内にはカフェがあり、本に登場する食事が再現されている。

本好きの乙葉と個性豊かな同僚、訳ありの来館者たちの本にまつわる小説です。

「悩みがちょっと軽くなる動物の読み薬」

新宅 広二／著 インプレス



本書は世界中の動物を見てきた著者が、人間が抱えているであろう悩みに対して、「ところで動物たちはどうしているのだろうか?」という観点から薬の処方箋に例えて動物の生態や行動を紹介しています。“寝相が悪い”という悩みの処方箋は、過酷な環境を生活の場にしたことで最も守らなくてはならないお腹を出して寝ることに成功した“ジャイアントパンダ”等、動物たちの意外な生態や行動を知ることによって悩みが少し軽くなるような一冊です。

「墨のゆらめき」 三浦 しをん／著 新潮社



西新宿にある三日月ホテルに勤務する続力(つづきちから)。宴会場担当でもある続の仕事のひとつに招待状の作成がある。パソコンでも気軽にできる時代だが、筆で書かれたもののほうがいいというお客さまが多いため、三日月ホテルでは筆耕士を登録し、お客さまにサンプルファイルを見て選んでもらうシステムを採用していた。ある日、一ヶ月前に登録した遠田薫という筆耕士と仕事をすることとなり、続は、遠田書道教室を訪れるのであった。

奔放な遠田に振り回される続だったが、徐々に信頼関係を築いていくお仕事、友情物語です。